

Figmaで"伝わる"デザインをつくってみよう

言葉だけでは伝わりづらいアイデア。Figmaを使えば、視覚的に整理し、チームとスムーズに共有できます。今回は、非デザイナーでも取り組める「伝わるデザイン」の第一歩をご紹介します。



- 「これ、どういう意味？」が減らない毎日
- 話し合っても伝わらないモヤモヤ

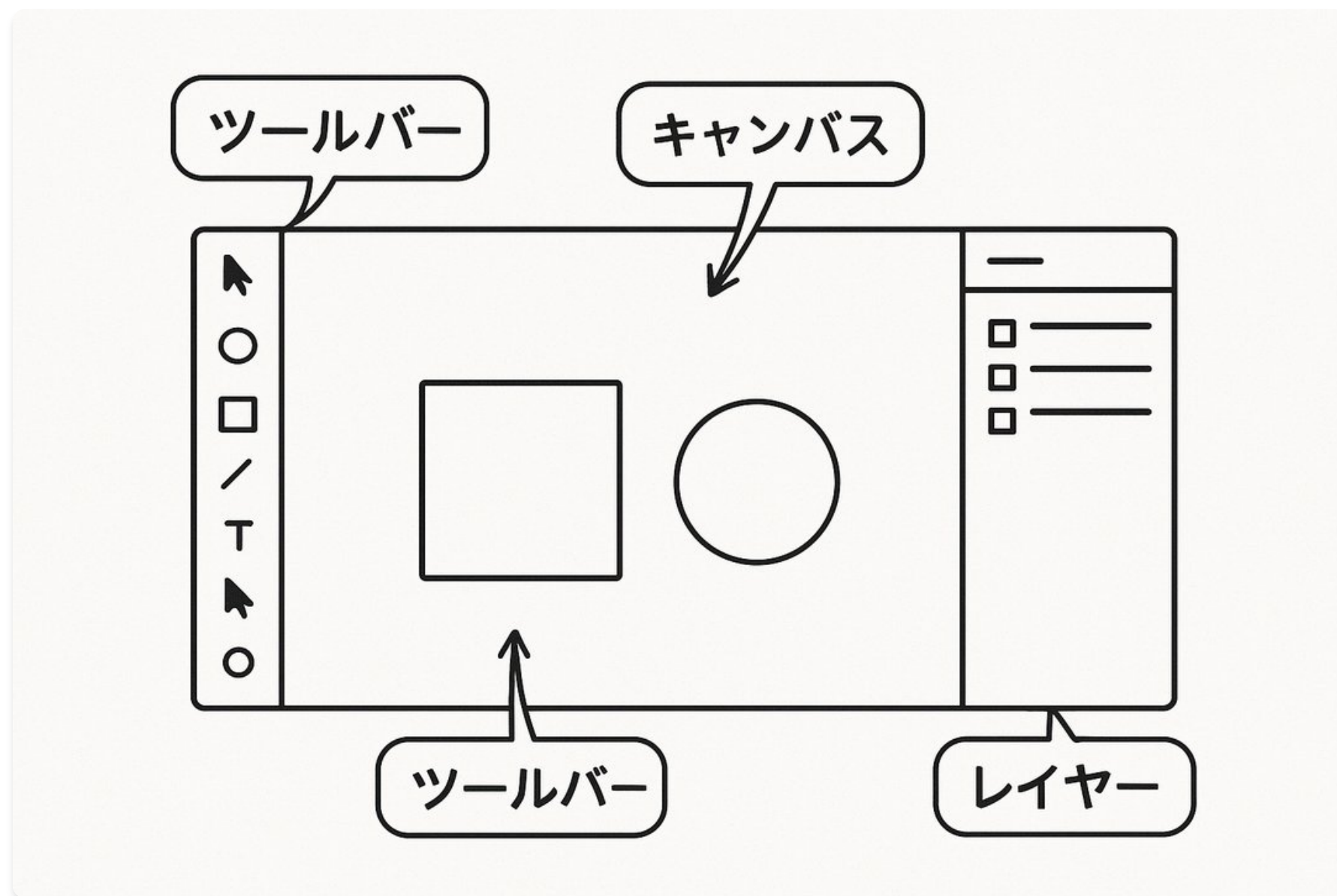


- Figmaで"見せる"伝え方を体験してみよう

こんなことで困っていませんか？

Figmaってどんなツール？

Figmaはクラウドで使える無料のデザインツール。Webブラウザで操作できるので、インストール不要で誰でも始められます。

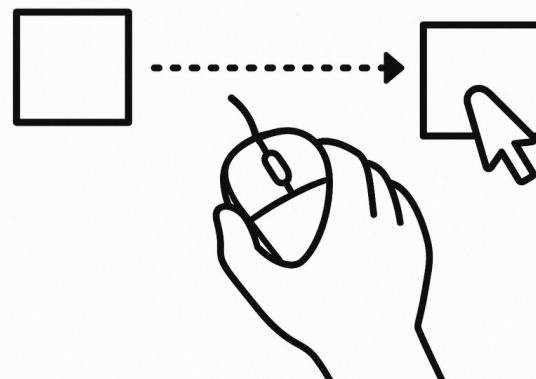


画面構成

- ログインしてすぐ使える「クラウド型デザイン」
- 主な画面構成：キャンバス、ツールバー、レイヤー

操作方法

ドラッグ&ドロップで簡単操作

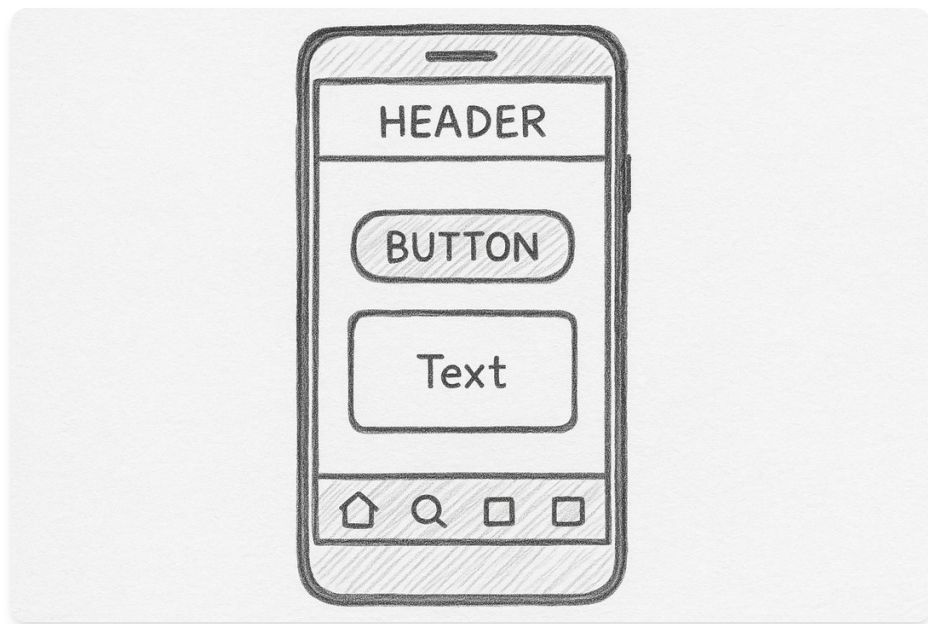


- ドラッグ&ドロップで直感的に操作

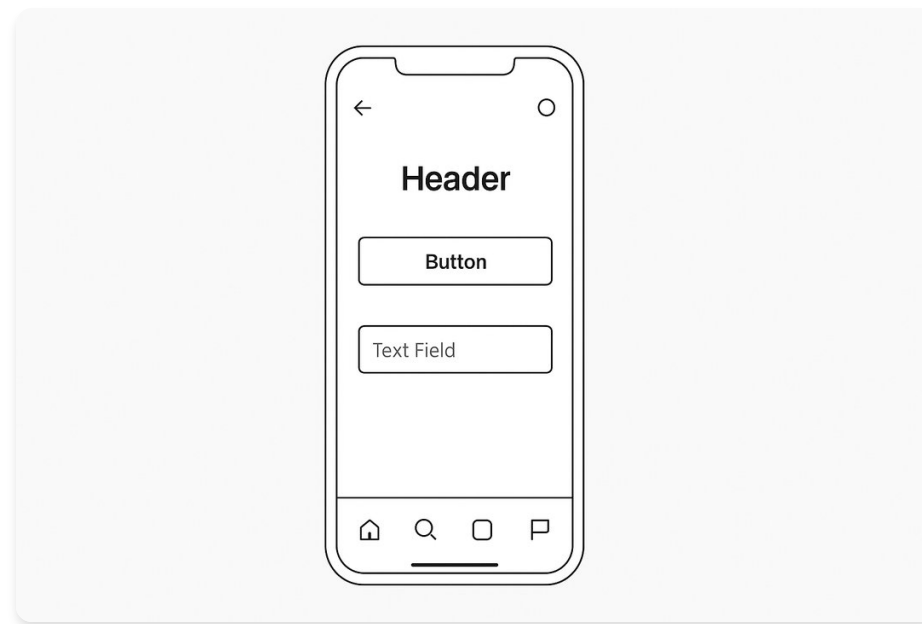
アイデアを設計図にしてみよう

まずはラフな構成「ワイヤーフレーム」を描いてみましょう。紙に描く感覚で、Figmaを使えば誰でも簡単に構成を整理できます。

手描きスケッチ



Figmaで再現



- ワイヤーフレームってなに？

画面の骨組みを表した簡易的な設計図。デザインの前に構成を確認するためのラフな図面です。

- 図形ツールで画面構成を描く

四角形や丸などの基本図形を使って、ボタンやテキストエリアを表現します。

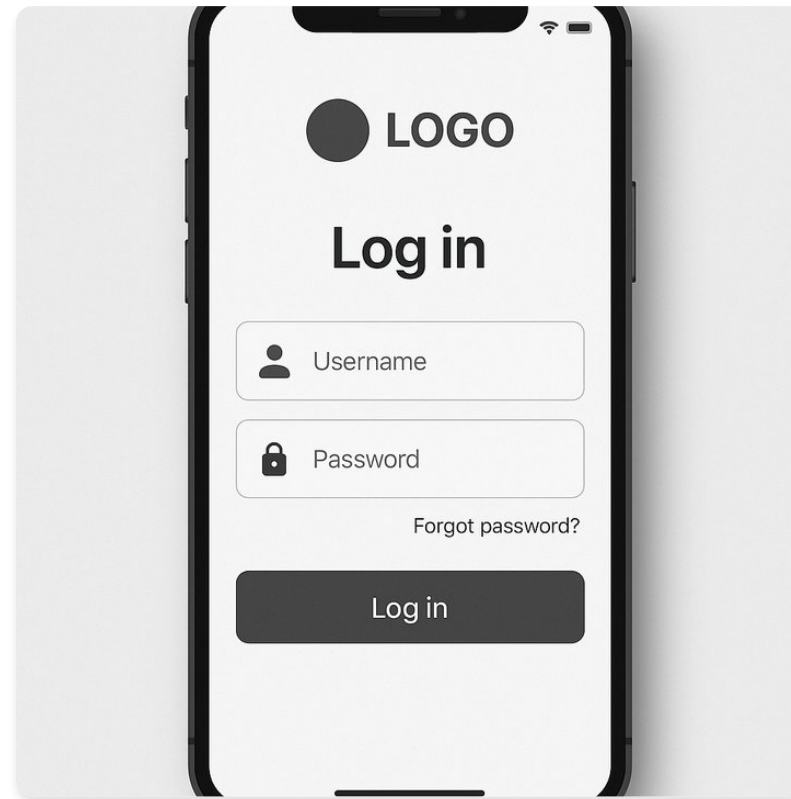
- ボタンや見出しを配置してみよう

操作の流れを考えながら、必要な要素をバランスよく配置します。

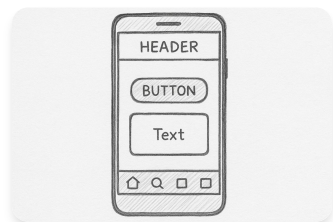
構成＝設計図。まずは形にしてみよう

完成イメージを共有してみよう

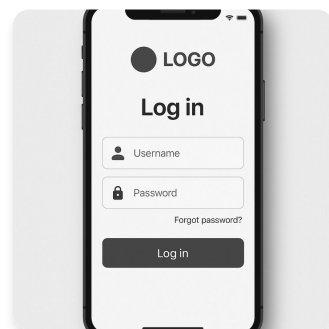
色や文字を加えて、見た目を整えた「モックアップ」を作ると、具体的な完成イメージが伝わりやすくなります。



ワイヤーフレームから進化

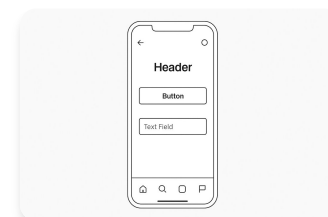


ワイヤーフレーム



モックアップ

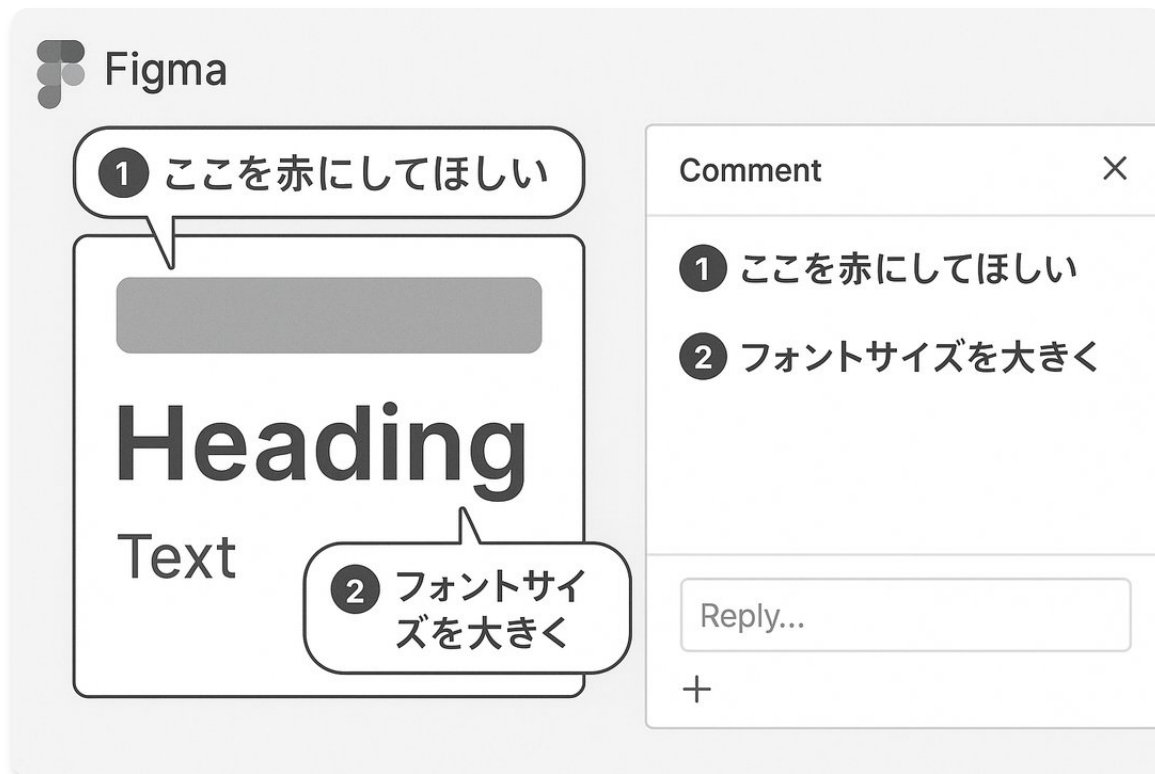
- 色・フォント・アイコンを使って「見せる」画面に
- スマホ画面やWebページの完成イメージをつくる
- テンプレートを使って簡単に始める方法も



テンプレートを活用すれば
初心者でもプロ品質に

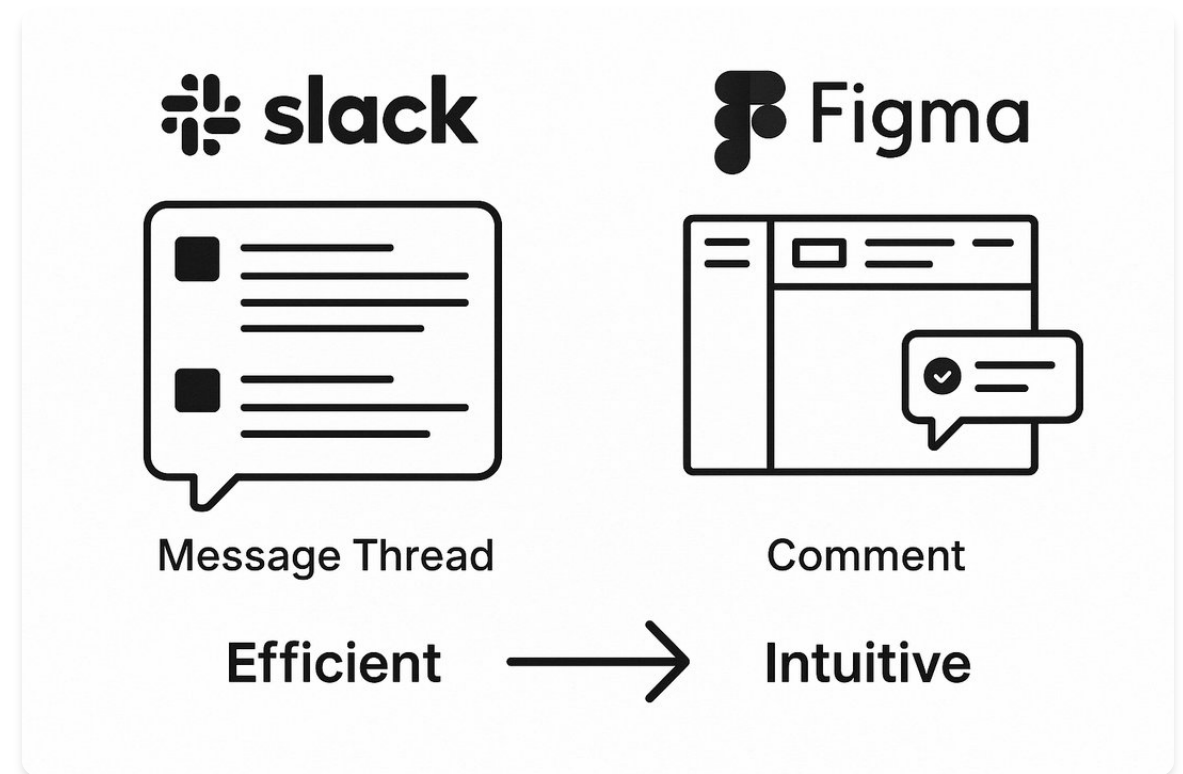
チームと一緒に、より良くする

Figmaのコメント機能を使えば、離れた場所でもフィードバックが簡単。紙ではできなかった"その場でやり取り"が可能に。



直感的なコメント機能

- コメント機能で「ここをこうしてほしい」が伝わる
- 編集せずにコメントだけつけられる安心感



効率的なコラボレーション

- オンラインでもスムーズに意見交換
- 文脈が明確で誤解が少ない

「伝える」から「伝わる」への一歩

デザインに直接コメントを残すことで、意図が正確に伝わります。何度もメールをやり取りする時間を節約しましょう。

Figmaでできること、広がる活用シーン

Figmaは、ちょっとしたアイデアを"見える化"するのに最適。会議資料や業務フロー図など、デザイン以外の用途でも活用できます。

今日のポイント：Figmaの3ステップ活用法

ステップ	内容	効果と活用シーン
1 構成	ワイヤーフレームを描く 図形ツールで画面やアイデアの骨格を整理	・ 曖昧なアイデアが「形」になることで認識が統一される ・ 会議の議題整理、アイデア出しに効果的
2 装飾	モックアップに仕上げる 色、フォント、アイコンで見た目を整える	・ 具体的な完成イメージがチームで共有できる ・ プレゼン資料、提案書の図解作成に最適
3 共有	コメントでフィードバック リアルタイムで意見やアイデアを交換	・ 離れた場所でもスムーズに連携できる ・ リモートワークでの協働作業がはかどる

デザイナー以外の活用例

- 事務職・営業： 業務フロー図、組織図の作成
- 企画職： アイデアマップ、コンセプトボード
- マネージャー： プロジェクト進捗の可視化
- カスタマーサポート： FAQ画面の設計

「描いて見せる」が新しいコミュニケーションに
あなたの仕事でも、活かせる場面がきっとあります

Figmaを触ってみよう！

実際にテンプレートを参考に、簡単なワイヤーフレームを作ってみましょう。完成しなくても大丈夫。「描いてみる」ことに意味があります。

演習手順



1. テンプレート開く



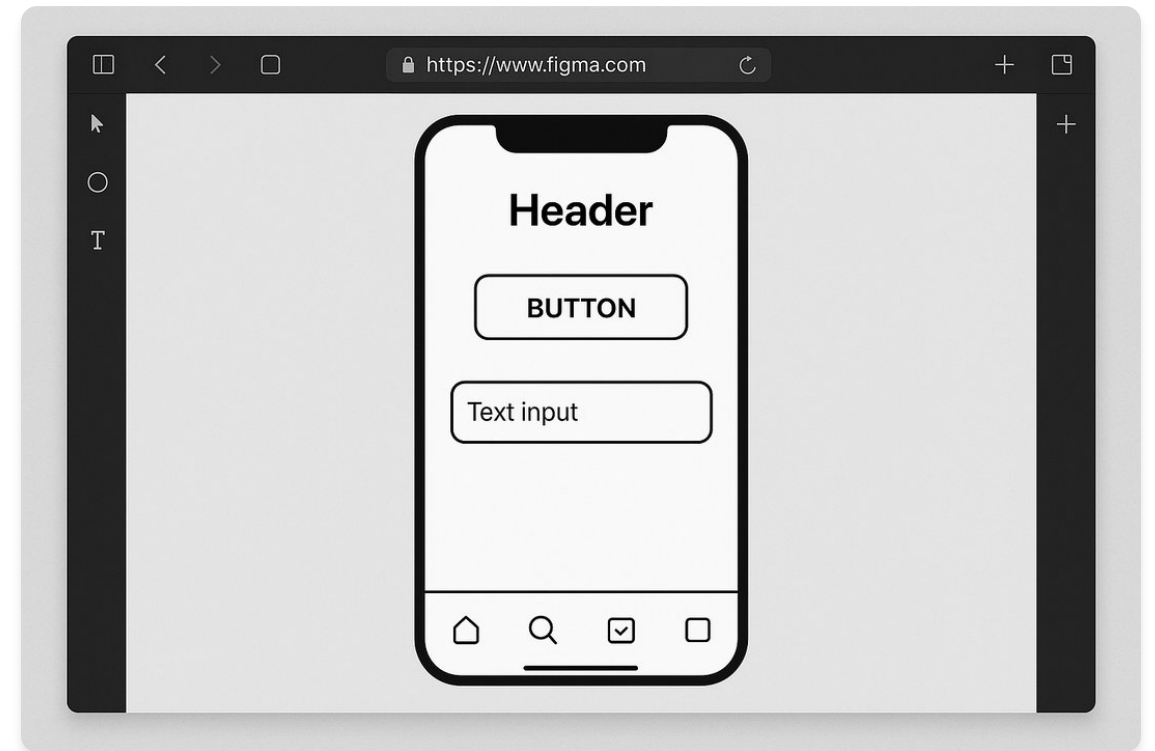
2. 図形を配置



3. コメントをつける

- 1 提供テンプレートから画面構成を作ってみよう
- 2 思いついたことはコメントしてみよう
- 3 できたことを認めて一歩ずつステップアップ

作例



少しでも"できた"と感じたら、それが第一歩です